

G空間情報センター

ニュースレター 第57号 2026年9月発行

【目次】

- [1. 【TOPICS】運用開始8年目を迎えた市民協働プラットフォーム「MY CITY REPORT」](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2026.7.1-8.31\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. FME で道路 LOD1 を作成する方法](#)
- [5. 浜松聖星高校と UDC 学校連携の紹介～UDC2025 銀賞＋実行委員会特別賞から深まる学びへ](#)
- [6. G 空間情報センタークリアファイルに掲載する写真募集](#)

1. 【TOPICS】運用開始8年目を迎えた市民協働プラットフォーム「My City Report」



一般社団法人
社会基盤情報流通推進協議会
(My City Report コンソーシアム事務局長)

松島 隆一

1. より身近な「小地域」への移行と、高度な「世帯推移モデル」の導入

My City Report（以下、「MCR」）とは、住民がまちの「こまった」を発見した時、自治体に対しスマートフォンで気軽に投稿できるサービス「[My City Report for citizens](#)」と、これまで自治体が目視で行っていた道路の損傷確認業務を AI に置き換え、正確でスピーディな道路損傷検出ができるサービス「[My City Report for road managers](#)」の2つのサービスの総称です。2019年4月の運用開始以降、8年目に突入しました。

MCRについては、[本ニュースレター第46号（2024年11月発行）](#)で、その基本機能等を紹介させていただきましたが、今回は、その後に追加された機能や、最近のトピックスなどを紹介させていただきます。

2. My City Report コンソーシアムの現状

MCR のサービスは、MCR の普及促進と参加地域・団体の課題解決を図ることを目的に設置された「My City Report コンソーシアム（以下、「コンソーシアム」）」が運用しており、自治体はコンソーシアムに加入することでサービスを利用することができます。会員自治体の意見を聞きながら各サービスの機能向上が逐次図られており、多くの自治体の参加による割り勘効果と合わせ、効率的なサービス提供が行われています。令和 8 年 9 月 1 日現在、「コンソーシアム」の会員自治体数は、計 33 自治体（1 都 3 県 8 特別区 19 市 2 村）となり、市民投稿機能の登録ユーザ数も 3 万人を超えるまでに なりました（図 1、図 2 参照）。

利用サービス	団体名	団体数
forC & RM	東京都、港区、品川区、世田谷区、神奈川県、尼崎市、和歌山県	7 団体 (1都2県3区1市)
forCのみ	北海道初山別村、千葉市、鎌ヶ谷市、印西市、白井市、千代田区、杉並区、葛飾区、国分寺市、福生市、多摩市、稲城市、加賀市、能美市、あわら市、塩尻市、長野県筑北村、富士市、高島市、和歌山市	20 団体 (3区15市2村)
RMのみ	盛岡市、目黒区、渋谷区、調布市、大津市、熊本県	6 団体 (1県2区3市)
合計		33 団体 (1都3県8区19市2村)

図 1：会員自治体数（2026 年 9 月 1 日現在）

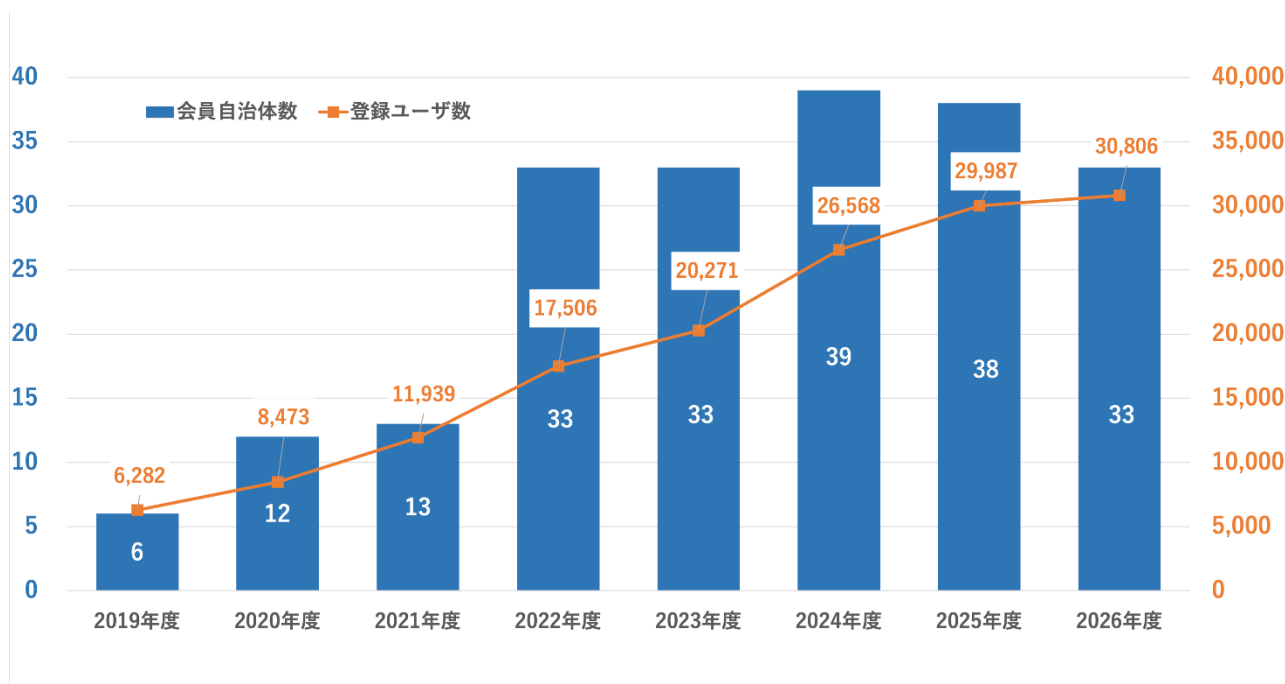


図 2：会員自治体数及び登録ユーザ数の推移（年度末現在。2026 年度は 8 月 19 日 現在）

また、コンソーシアムでは、毎年開催する総会・連絡会の機会に、会員自治体の MCR 活用事例を共有していますが、2025 年度からは、各自治体から提示された課題への対応等について、会員自治体有志と事務局が共に考える「自治体支援ワーキング」を開催しています。2025 年度は、「大量投稿者への対応」をテーマに開催し、その検討結果を踏まえ、今年度中にアプリを改修する予定です。

3. 市民協働投稿サービス (My City Report for citizens)

住民がまちで見つけた道路の損傷や公園遊具の破損などの地域の「こまった」を、自らのスマートフォンの専用アプリ (2026 年 4 月からブラウザ版のサービスも提供開始) で、写真と位置情報などを投稿することで、自治体と共有し、自治体と市民が協働して対応するためのサービスです。

以下、前回の紹介以降に追加した主な機能と、最近のトピックス等について紹介します。

(1) 市民投稿の仕組み改善

- ・投稿者・会員自治体双方の負担を軽減するため、投稿者自身が回答の要・不要を選択できる機能を追加 (2025 年 3 月)
- ・専用アプリのインストールを必要としないブラウザ版 MCR アプリを提供 (2026 年 4 月)

(2) 管理・運用の仕組み改善

- ・投稿場所の特定を容易にするためレポート詳細画面に Google Map 参照機能を追加 (2024 年 12 月)
- ・投稿写真に人物等が含まれている場合のモザイク処理について、モザイク処理前後の画像差し替え機能を追加 (2025 年 7 月)



図 3 : モザイク処理前後の画像差し替え機能

(3) トピックス

- ・2026 年 8 月千葉豪雨において内水氾濫が発生した千葉市では、災害後の情報収集のため、MCR のテーマレポートを用いて「道路上に散乱しているごみ」「被災車両情報」の提供を市民に呼びかけました。



図 4：災害後の情報収集への活用

4. 道路損傷検知サービス (for road managers)

専用アプリをインストールしたスマートフォンを自動車のダッシュボードに設置し、パトロールすることにより、自動的に道路の損傷箇所を検出し、損傷画像とその位置情報をサーバにアップロードするサービスで「損傷検知」と「路面評価」の 2 つの機能を提供しています。

以下、前回の紹介以降に追加した主な機能と、最近のトピックス等について紹介します。

(1) 損傷検知の仕組みの改善

- ・「路線評価」に損傷種類ごとの表示機能を追加 (2025 年 2 月)
- ・ポットホールや亀甲状ひび割れに加え、白線 (区画線)・横断歩道の剥離を検知し剥離率を自動算出することで、剥離をレベル分けして表示可能に (2025 年 4 月)

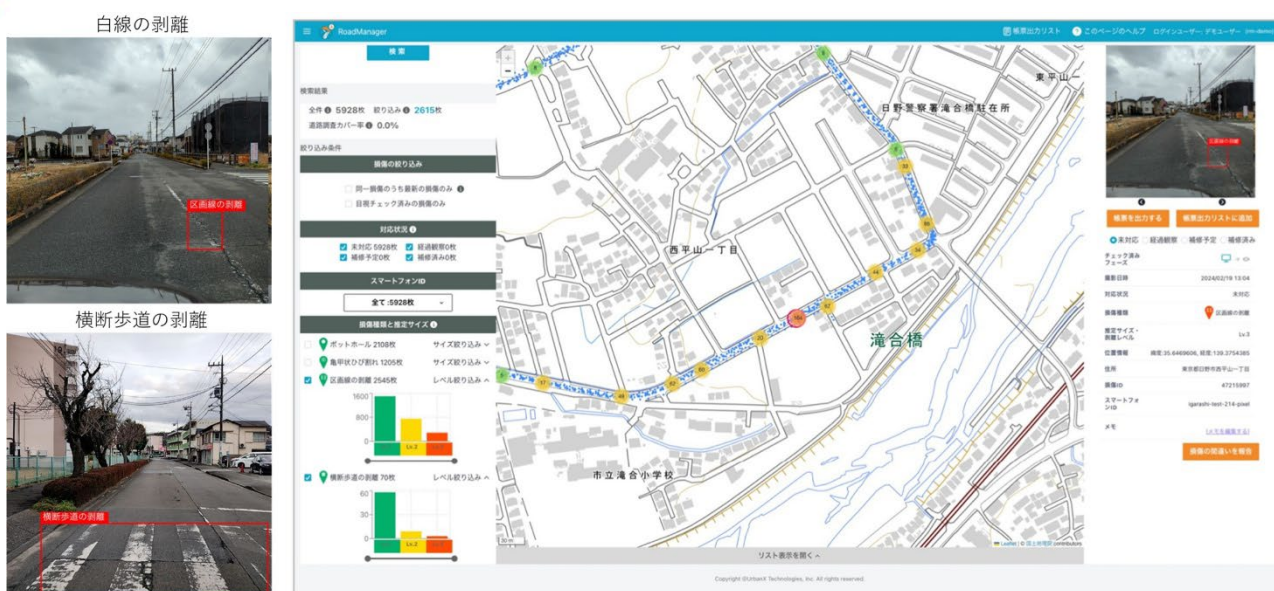


図5：白線・横断歩道の剥離検知

(2) 路面評価の仕組みの追加

スマートフォンで取得した動画像と加速度データから、対象路線について、国が定める指標（ひび割れ率、IRI、MCI）に基づいた簡易的な路面性状評価を行う機能を追加しました。

従来の路面性状調査と比べ、低コスト、高精度、簡便性、効率性の向上が図られます。



図6：路面評価機能

(3) トピックス

ダッシュボード表示速度の抜本的な改善を図るため、システムの全面刷新を実施（2026 年 9 月予定）

5. 最後に～自治体のみなさんに～

「My City Report」では、会員自治体の経験や叡智を集め、サービスの機能向上や普及促進を行っています。本稿を読んでいただいた自治体の皆さんも、ぜひコンソーシアムにご参加ください。皆さんのご経験や知識を「My City Report」に注ぎ込み、住民と自治体がAIを活用しながらタッグを組んだ住みやすいまちづくりを、一緒に進めていければと思います。

「My City Report」の取り組みにご興味のある方、導入を考えてみたいという方は、My City Report コンソーシアム事務局までお気軽にご連絡ください。

■本件お問い合わせ先

My City Report コンソーシアム事務局

Mail : mcr-info@aigid.jp

2. 上位アクセス状況(集計期間：2026.7.1-8.31)

登録ユーザー数	145,048 名
期間アクセス数	1,131,457
登録組織数	783 件
データセット数	17,290 件
ファイル数	193,032 件

人気のデータセット

1	節点・補助基準点及び平成 16 年度～18 年度に実施した都市再生街区基本調査の成果、平成 22 年度より 実施している都市部官民境界基本調査の成果提供
2	3D 都市モデル (Project PLATEAU) ポータルサイト
3	全国の人流オープンデータ (1km メッシュ、市区町村単位発地別)
4	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
5	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
6	現存植生図 2024
7	国有林 GIS データ (2024 (令和 6) 年度版) (最新版)
8	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 大阪市 (2025 年度)
9	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京 23 区 (2022 年度)
10	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 横浜市 (2024 年度)

※今期集計結果については、システムメンテナンスの影響で従来の測定値より下回っております。
予めご了承ください

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[コチラ](#)

最終更新順データセット一覧は[コチラ](#)

*リンクを開く際、少しお時間がかかる場合があります。

4. FME で道路 LOD1 を作成する方法



アサミ情報システム株式会社

峯上 佳丈

はじめに

アサミ情報システム（以下、当社）では PLATEAU 業務に関わる 3D モデル作成や CityGML の作成を行っております。

[前回の記事](#)では、FME を使った建築物 LOD1 モデルの作成をご紹介しました。PLATEAU の CityGML を作成された経験のある方は FME を利用されている方が多くいらっしゃると思いますが、FME は CityGML を作成するためだけではなく、モデル作成前のデータ整備にも活用することができます。

今回は、3D モデルを作り始めたエンジニアの方向けに FME を活用した道路の LOD1 の作成手順をご紹介いたします。

※：本稿で扱うのは 2D 段階の道路面作成、区切り及び属性付与までです。CityGML への出力は別工程となるため、ここでは割愛します。また、標準作業手順書は道路縁から道路面を作成する要件を示していますが、道路候補の抽出方法までは規定していません。本稿でご紹介する抽出方法は、FME を用いた前処理例です。

1. DM の道路縁から道路ポリゴンを作成

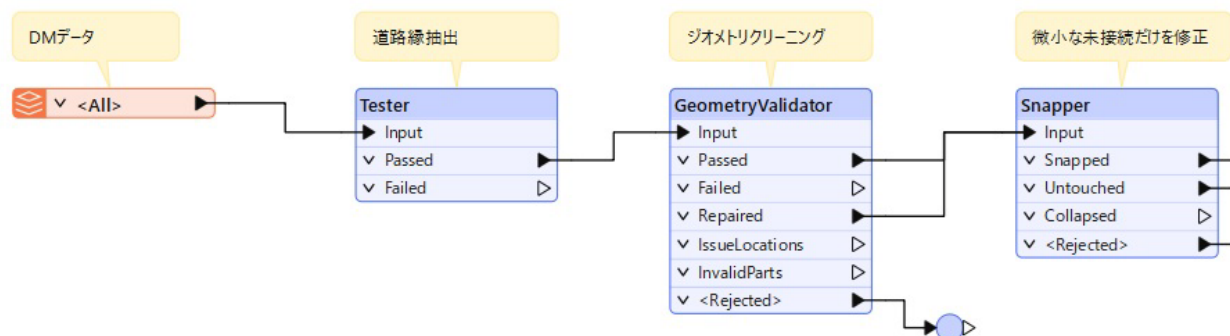
3D 都市モデル標準作業手順書では、道路 LOD1 は都市計画基本図等の DM データから道路縁を取得し、道路縁をつないだ面として作成します。最初に、ポリゴン化に使用する道路縁を DM の図式分類コードから抽出します。

1.1 DM から道路縁を抽出

主に確認する図式分類コードは次のとおりです。21XX の地物を一括して道路縁とみなさず、徒歩道モデルの対象となる 2106：庭園路等や 2103：徒歩道は道路モデルに含めないように留意します。

- 2101：道路縁（街区線）。道路 LOD1 の外周作成で中心となるコードです。
- 2107：トンネル内の道路。対象範囲にトンネル内の道路を含める場合は、道路縁の取得状況を確認します。
- 2203：道路橋（高架部）。後工程で橋梁又は高架橋の区間を特定する素材にします。
- 2219：道路のトンネル。坑口を基にトンネル区間の端部を確認する素材にします。

※：自治体独自の分類コードを使用している場合があります。DM の作成時に適用された公共測量作業規程、取得分類コード表を必ず確認してください。



FME®

図1：DM から道路線を抽出するワークスペース例

- (1) Reader (都市計画基本図等の DM データ)
- (2) Tester (DM 図式分類コード：2101、2203。必要に応じて 2107 等を追加) → 道路線を抽出
- (3) 道路線抽出後のジオメトリクリーニング：GeometryValidator (近接閾値：0.01m。Duplicate Consecutive Points、Self-Intersections in 2D 等) → ポリゴン化の妨げになるジオメトリ不備を検出及び修正
- (4) Snapper (Snapping Tolerance：0.01m) → 微小な未接続だけを補正

※：近接閾値と Snapper の許容値は、PLATEAU の品質評価で用いる 0.01m を基準とします。自動補正で別の道路や敷地の入口を誤接続しないよう、補正箇所 (Repaired から出力されたデータ) を確認します。

1.2 道路線を閉じた面にする

道路線は道路網全体では閉じた線になっていないため、道路線だけではポリゴンを作成できません。そこで、作成対象範囲ポリゴンを外側へバッファして一時的な処理範囲のポリゴンを作り、LineOnAreaOverlayer でこのポリゴンを道路線により分割します。作成対象範囲を基準にすることで、HullAccumulator のように作成対象外の道路線まで含む外包面が生成されることを避けられます。

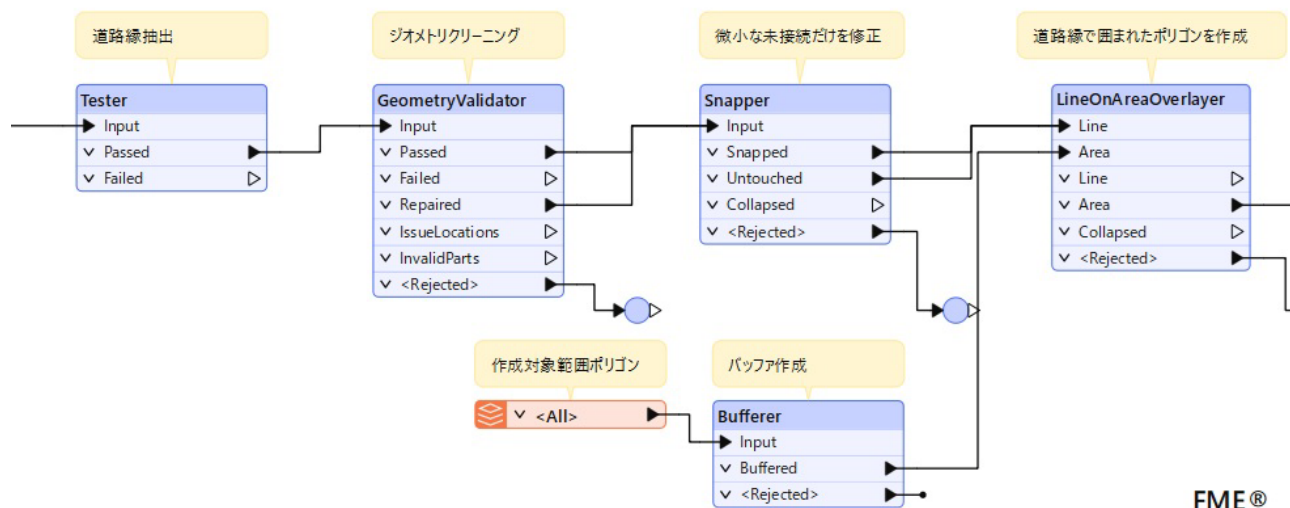


図 2：道路線を閉じた面にするワークスペース例

(1) Reader (作成対象範囲ポリゴン)

→ Bufferer → 作成対象範囲の外側に余裕を持たせた処理範囲ポリゴンを作成

(2) LineOnAreaOverlayer (Mode：Split Areas With Lines)

→ 処理範囲面を道路線で分割し、道路線で囲まれたポリゴンを作成

Bufferer の距離は、道路線が後工程の交差点や道路構造の変化点での区切り以外に途中で切れないよう、作成対象範囲の外側に十分な余裕を持たせて設定します。PLATEAU では、道路は行政区で区切らず、行政区を跨ぐ道路オブジェクトを隣接する市区町村のデータセットに重複して含めることを許容しています。そのため、処理範囲ポリゴンも作成対象範囲のみで機械的に区切るのではなく、道路線の区切り位置（交差点やトンネル及び橋梁部等の位置）を確認し、必要な範囲を含むように設定します。

1.3 道路らしいポリゴンを粗く抽出

LineOnAreaOverlayer で分割した処理範囲ポリゴンには、道路だけでなく街区の内側や河川敷等のポリゴンも含まれます。道路線が連続して道路網を形成している場合、道路部分は街区を穴として持つドーナツポリゴンになる可能性が高い一方、街区の内側や河川敷等は穴を持たない単純ポリゴンになることが多くあります。ここでは、この形状の違いを利用して道路候補を粗く絞り込みます。

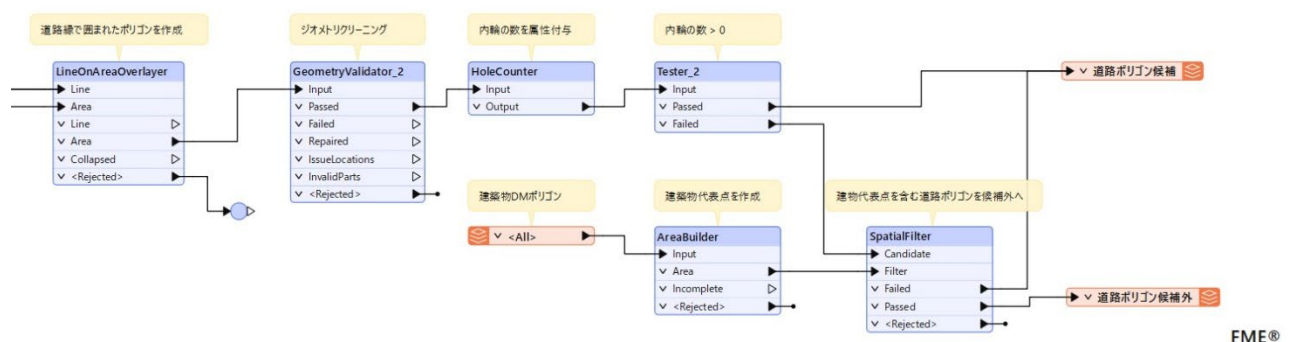


図 3：道路らしいポリゴンを粗く抽出するワークスペース例

(1) GeometryValidator

→ LineOnAreaOverlayer で分割したポリゴンの自己交差、重複頂点、無効な穴等を検査及び修正

(2) HoleCounter (Hole Count Attribute : _hole_count)

→ 各ポリゴンが持つ穴の数を属性として取得

(3) Tester (_hole_count > 0)

→ 穴を1つ以上持つドーナツポリゴンを道路候補へ、_hole_count = 0 の単純ポリゴンを候補外へ分岐

候補外へ分岐した単純ポリゴンは、その場で破棄せず確認用レイヤとして保存します。道路縁の未接続や立体交差部では、本来は道路である面が単純ポリゴンになることがあるためです。

(4) AreaBuilder

→ CenterPointReplacer (Mode : Any Inside Point)

→ DM 建築物が線の場合は、閉じた建築物の線をポリゴン化し、建築物代表点を作成

(5) SpatialFilter (建築物代表点)

→ 道路候補のうち建築物代表点を含むポリゴンを誤抽出の疑いがある候補として分岐

建築物代表点は、ドーナツ判定を補う確認材料として使います。建築物が立地するポリゴンは道路ではない可能性が高いため、道路縁の未接続で生じたポリゴン等を特定しやすくなります。また、建築物ポリゴンそのものではなく代表点を使うことで、建築物形状のわずかな重複や位置ずれによる過剰な抽出を抑えられます。

また、立体交差部では、上の道路と下の道路を別々の面として扱うため、一方又は両方が周囲の道路網とつながらず単純ポリゴンとなり、道路候補から過剰に除外されることがあります。候補外レイヤを DM の道路橋やトンネルと重ね、立体交差部を重点的に目視確認し、道路である単純ポリゴンを道路候補へ還元します。

GIS ソフト上で上記の箇所を主に確認及び修正します。

1.4 GIS ソフトで形状を修正

道路候補と候補外ポリゴンを GIS ソフトに読み込み、DM、航空写真等を背景にして最終確認します。ドーナツ判定で候補外となった単純ポリゴンも表示し、特に立体交差部で道路面が過剰に除外されていないかを確認して、必要な面を道路候補へ戻します。そのうえで誤抽出を削除し、抽出漏れを追加し、道路縁の未接続や誤接続を修正します。立体交差部では、高架道路と下の道路を別々の面として取得し、2D 上で面が重なる状態にします。

※：使用する DM に高架下道路の陰線データが含まれるかどうかは、自治体独自の仕様等により異なり、全国一律には保証されません。陰線データがない場合は、原典資料の航空写真を用いたステレオ図化等により下の道路縁を取得し、上下の道路を別々の面として作成することができます。

2. 交差部・橋梁部・トンネル部の区切りを作成

道路 LOD1 は、道路縁により囲まれた面を作るだけでは完成しません。標準作業手順書では、交差部、道路構造が変化する場所、位置正確度又は取得方法が変わる場所で道路オブジェクトを区切ることが求められています。本稿では、交差部・橋梁部・トンネル部を手動で区切る流れを説明します。

2.1 道路中心線と交差点候補を作成

まず、作成した道路ポリゴンから道路中心線を作り、その交点をポイントにします。このポイントは、後工程で交差点ポリゴンへ「交差点」の属性を付けるための素材です。

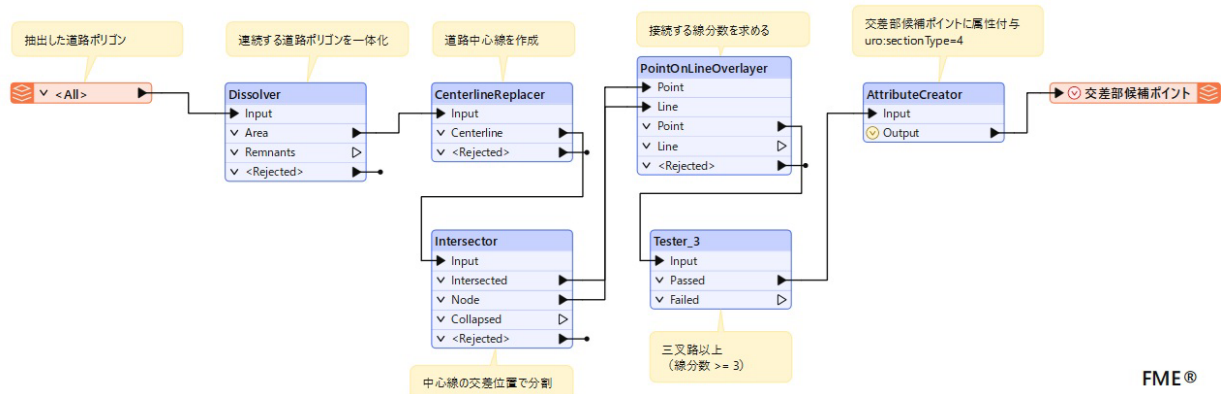


図4：道路中心線と交差点候補を作成するワークスペース例

- (1) Dissolver → 連続する道路候補を一体化し、中心線作成前の境界を整理
- (2) CenterlineReplacer (Mode : Centerline) → 道路ポリゴンを中心線に変換
- (3) Intersector → 中心線を交差位置で分割し、Node ポートから交点及び端点、Intersected ポートから線分を取得
- (4) PointOnLineOverlayer → Node と分割後の線分を重ね、各 Node に接続する線分数 (Overlap Count : _connection_count) を取得
- (5) Tester (_connection_count ≥ 3) → 三差路以上の交差点候補を抽出
- (6) AttributeCreator (uro:sectionType=4) → 交差点候補ポイントに属性値を設定

CenterlineReplacer の結果は、広場、中央分離帯、ラウンドアバウト等で枝分かれすることがあります。また Intersector は 2D 上の交差を扱うため、立体交差でも交点を作成されます。DM の橋梁やトンネルと重ね、不要な交点を除外します。

2.2 交差点の区切り線を手動で配置

交差点を自動で区切るツールも公開されていますが、本稿では GIS ソフトで区切り線を手動配置する流れを記載します。隅切りの有無、四差路・多差路・三差路により区切り方が異なるため、具体的な作図方法は 3D 都市モデル標準作業手順書 D.3.1.2.1 を参照してください。

- (1) 交差点候補ポイントを表示 (交差点候補を見落とさないための目印にする)
交差点ではない箇所にポイントがあった場合は、ポイントを削除及び修正する。
- (2) 標準作業手順書に従って区切り位置を判断し、道路ポリゴンを横断する線を作図
- (3) 区切り線の両端は、スナップミスを避けるため道路ポリゴンの外側まではみ出すように配置
- (4) 立体交差では、高架道路 (上の道路) と下の道路を別々の道路面として扱い、それぞれの道路について区切り位置を判断して区切り線を配置

※：立体交差の上下の道路は、2D 上で面が重なっていても別インスタンスです。平面上の交差位置を一つの交差部としてまとめず、上の道路と下の道路を分けて区切り作業を行います。

2.3 橋梁及びトンネルの区切り線を手動で配置

橋梁及びトンネルの区間は、DM の道路橋（2203）と道路のトンネル（2219）を基に確認し、道路構造が変わる位置へ区切り線を配置します。

道路橋（2203）のひ開部に注意します。公共測量標準図式では、道路橋は縁線を取得し、ひ開部は自動発生して表示するとされています。ひ開部は橋梁区間の実位置を示すものではないため、実際に取得された橋の縁線の端部や橋床部の範囲を確認して区切ります。

道路のトンネル（2219）は地下部への出入口である坑口を表し、トンネル内部の道路経路そのものとは役割が異なります。坑口的位置を基に入口・出口の区切り線を作り、必要に応じてトンネル内の道路（2107）も併せて確認します。

2.4 構造種別ポイントを配置

通常区間以外の各道路ポリゴンに構造種別を付与できるよう、ポリゴン内部へポイントを配置します。交差部ポイントは交差点候補ポイントを使用します。橋梁、高架橋、アンダーパス、トンネルは確認した区間の内部へ手動で配置します。土工区間・通常区間にはポイントを配置せず、後工程で `uro:sectionType` の初期値 1 を付与します。

- 1：土工区間・通常区間
- 2：高架橋
- 3：橋梁
- 4：交差部
- 5：アンダーパス
- 6：トンネル

道路橋（2203）には橋梁と高架部が含まれるため、DM コードだけで `uro:sectionType` を一律に決めず、実際の道路構造を確認して「2：高架橋」又は「3：橋梁」を選択します。また、高架内やアンダーパス内の交差部など複数の種別が重なる場合は、標準作業手順書に従い「4：交差部」を優先します。

ポイントは区切り線やポリゴン境界上を避け、対象ポリゴンの内部へ置きます。後工程で使用する `PointOnAreaOverlayer` では境界上のポイントが両側の面に含まれる場合があるためです。

3. 区切り線で面を分割し、構造種別を付与

交差部・橋梁部・トンネル部の区切り線と構造種別ポイントがそろったら、FME で道路ポリゴンを分割し、ポイントの属性を各ポリゴンへ転記します。

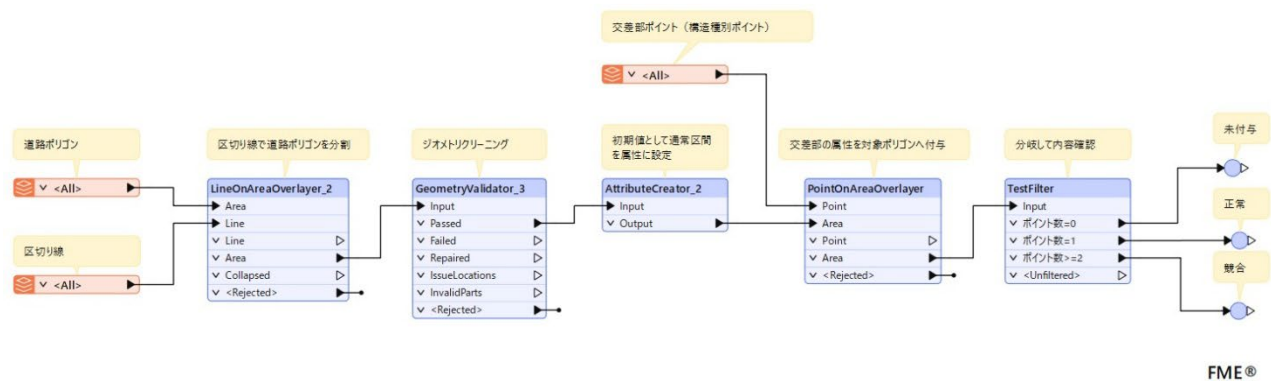


図5：区切り線で面を分割・構造種別を付与するワークスペース例

- (1) Reader (道路ポリゴン)、Reader (区切り線)
- (2) LineOnAreaOverlayer (Mode : Split Areas With Lines) → 区切り線で道路ポリゴンを分割
- (3) GeometryValidator → 分割後の自己交差、重複頂点、無効ポリゴンを検査
- (4) AttributeCreator (uro:sectionType=1) → 分割後ポリゴンへ通常区間の初期値を設定
- (5) Reader (構造種別ポイント)
- (6) PointOnAreaOverlayer (属性を Area へ転記、Overlap Count : _overlaps を作成)
→ ポイントの uro:sectionType を対象ポリゴンへ付与
- (7) TestFilter (_overlaps の値で分類。ポイント数=0、1、2 以上)
→ 未付与、正常、競合に分岐して確認

LineOnAreaOverlayer の Split Areas With Lines では、線が面を完全に二分した場合に分割されます。区切り線が道路境界まで届いていない場合は分割されないため、実行後にポリゴンの区切り位置と区切り線の位置が一致しているかを確認します。

構造種別ポイントが0個の面は通常区間として扱えますが、橋梁、トンネル、交差部に該当する面では入力漏れの可能性があります。2個以上のポイントを含む面は、区切り不足、ポイント位置の誤り又は属性競合を疑い手動確認へ回します。

4. ジオメトリと属性を確認するには

道路モデルは連続する面が多いため、小さな未接続や区切り漏れが広い範囲へ影響します。工程の末端だけで確認するのではなく、ポリゴン化、手動修正、区切り、属性付与の各段階で処理結果をキャッシュしておくことで手戻りを減らせます。

主な目視確認項目

- 候補外の単純ポリゴンを立体交差部で確認して必要な道路面を復元している
- 道路部以外のポリゴンが道路ポリゴンに含まれていない
- 立体交差は高架道路と下の道路を別インスタンスとして作成されている
- 四差路・多差路・三差路が標準作業手順書の考え方で区切られている
- 橋梁、高架橋、トンネルの範囲と uro:sectionType が DM 及び補助資料と整合している
- 位置正確度又は取得方法が変わる場所でも道路オブジェクトを区切り、データ品質属性を記述できる状態になっている

5. 参考資料

- [3D 都市モデル標準作業手順書（附属書 D 妥当な道路オブジェクト）](#)：
D.3.1.2、D.6.1.2.1、D.6.1.2.2、D.6.2.2、D.6.2.3 を参照
- [作業規程の準則（付録 7 公共測量標準図式）](#)：
道路縁、道路橋、道路のトンネルの分類・取得方法を参照
- [FME Form Documentation](#)：
Bufferer、LineOnAreaOverlayer、GeometryValidator、Snapper、HoleCounter、Tester、
AreaBuilder、CenterPointReplacer、SpatialFilter、Dissolver、CenterlineReplacer、Intersector、
PointOnLineOverlayer、AttributeCreator、PointOnAreaOverlayer、TestFilter
※：各資料及び FME の仕様は 2026 年 8 月 27 日時点の公開情報を確認しています。

最後に

当社では 3D モデルの作成や CityGML の作成をはじめ、様々な GIS データの作成・活用も行っております。

もしお困りごとなどありましたら当社の問い合わせフォームよりお気軽にご相談ください。

※：FME®を使用。FME®は Safe Software Inc.の登録商標です。

■お問い合わせ先

アサミ情報システム株式会社 <https://www.asamisun.com/contact>

5. 浜松聖星高校と UDC 学校連携の紹介～UDC2025 銀賞＋実行委員会特別賞から深まる学びへ



浜松聖星高等学校 情報科主任

園川 香おり

1. 本校の紹介と探究の背景

静岡県西部地区唯一のカトリック・ミッションスクールである浜松聖星高等学校（以下、本校）は、校訓に「真理を学び 愛に生きよ 真理と愛こそ人生の光」、教育の重点には「心の教育」「国際教養教育」そして「理数(STEAM)教育」を掲げており、生徒たちが日々伸びやかに成長しています。2024 年度より高等学校 DX 加速化推進事業(DX ハイスクール)に採択され、高校段階から情報や

数学などの教育を重視し、ICT を活用した文理横断的・探究的な学びの強化が本校の中で一段と加速しました。

2. アーバンデータチャレンジ (UDC) 2025 の受賞

2023 年度から普通高校の新しい科目として始まった「情報 II」と DX ハイスクールの 2 つを融合し、本校では様々な取り組みを行っており、その中の 1 つとして UDC2025 へ挑戦し、賞をいただくことができました。

一般部門 銀賞＋実行委員会特別賞

「通報しに行っちゃお！言っちゃお！～若者の社会参画の促進～」

UDC は、地方自治体、企業、大学、市民活動組織などが協力し、データを活用して地域課題の解決に挑むコンテストです。

この作品は浜松市の既存通報システムを拡張した「オープンデータ×市民参画モデル」として若者世代の地域社会への関心と参画意識を高め、継続的なまちづくりを目指して、情報 II を選択する生徒たちが 2 年間で費やして実践した探究作品です。探求を支えてきた私は、生徒の取り組みによって全校生徒の意識の変化を感じ、高校生が市民 (Civic) と技術 (Technology) を組み合わせたシビックテックに取り組むことは、若年層が地域に興味を持って主体的に関わるきっかけになり、社会全体の未来に貢献する人材育成だと確信しました。この 2 年間の取り組みは、2026 年も世代を引き継ぎ、現在も進行中です。そこで本校は UDC 学校連携校となり、生徒のさらなる成長を応援することとしました。

3. UDC 学校連携とは

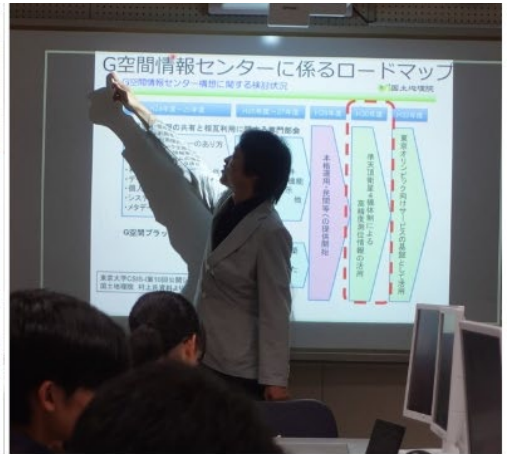
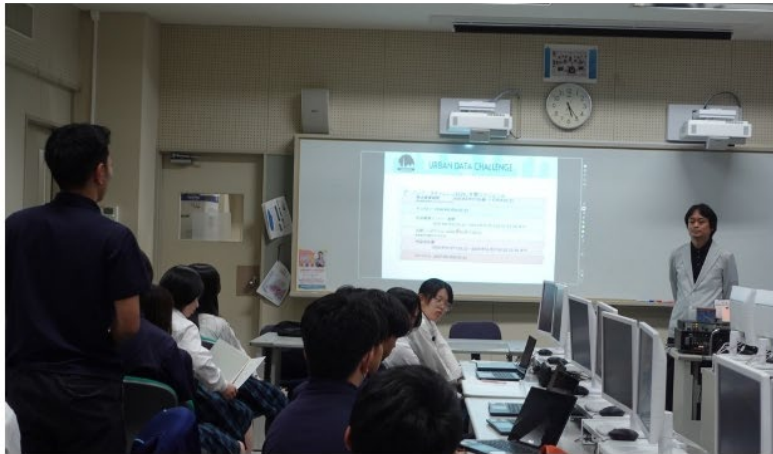
UDC 学校連携とは、学生がサービスを受ける側ではなく、「まちの未来をつくる主体」として成長できる環境を、学校・地域・UDC が一体となって提供していく仕組みです。本校は浜松市の中心部と静岡大学情報学部のある浜松キャンパスのどちらにも距離が近く、これまでも積極的に地域連携に参加してきました。本年度はこの恵まれた環境を活かして世代を超えた取り組みをさらに加速する計画です。

4. 関本先生の対面講座

UDC は、東京大学の「シビックテック・デザイン創成寄付研究部門」とも連携しています。学校連携を通じて、シビックテックや地域課題解決に関する意識醸成をしていただくことができます。

本年度は学校連携の取り組みとして、本校に 2026 年 6 月 12 日(金)に東京大学空間情報科学研究センター(CSiS)センター長の関本義秀先生をお迎えし CSiS の研究内容とデータが社会に与える影響を例に理系分野の社会貢献について 90 分の講座を行っていただくことができました。

授業の冒頭でスマートフォンの GPS データを使って東日本大震災時の人の流れを可視化した映像を見せていただき生徒は夢中になりました。全体の 1%未満のデータであっても、「そこで何が起きているのか」が手に取るようにわかることから、データは「一部の専門家が扱う難しい数字」から、「社会課題を解決し、命を守る強力な武器」になることを確信していきました。



5. 授業後の生徒の変化

関本先生の授業が終わり、生徒から集めた感想には、

- ・都市計画は『行政や大人が決めるもの』から、『100年後の未来を長く生きる自分たち若者世代こそが関わるべきもの』へと意識が変わった。
- ・世界でまだ誰もやっていない、自分が興味を持ったことを研究して社会に貢献している姿に憧れる。自分の探究心を信じて突き進む大切さを学んだ。
- ・学校での理数分野の学びが、単なる机上の空論ではなく「実際の社会貢献に直結する実践的なスキル」なのだと気づいた。

などがありました。

6. 今後の展望

今回の UDC 学校連携講座が撒いてくださった種は、生徒たちの中でしっかりと根を張り、芽吹き始めています。現在は昨年度のシビックテックに加え、静岡県全域の3次元点群データ「VIRTUAL SHIZUOKA」や国土交通省の3D都市モデルオープンデータ「PLATEAU」などにも生徒たちの興味が広がって探究を始めています。生徒たちがデータを武器にどのような未来の街を創っていくのか、私自身とても楽しみです。

■本記事に関するお問い合わせ先

学校法人浜松海の星学院 浜松聖星高等学校

情報科 主任：園川香おり

E-mail : sonokawa-kaori@hamamatsu-seisei.jp

【アーバンデータチャレンジ 2026 作品募集要領のお知らせ】

https://urbandata-challenge.jp/udc2026_entry

UDC 学校連携に関するお問い合わせにつきましては、
アーバンデータチャレンジ事務局 (udc-office@aigid.jp) までメールにてご連絡ください。

6. G 空間情報センタークリアファイルに掲載する写真募集

G空間情報センターオリジナルクリアファイルに掲載させてください

『空間に描かれた意図』 写真募集！

G空間情報センターのオリジナルクリアファイルの掲載写真を今年度も刷新することが決定致しました。新たに掲載する写真を広く募集致します。皆様奮ってご応募ください。



現在、G 空間情報センターオリジナル
ファイルに掲載させていただく写真を募
集中です。ぜひお手持ちの写真などお送
りください☆

応募締切：

2026 年 10 月 15 日 (木)

17 時受信分まで

募集テーマ：

空間に描かれた意図

写真サブテーマ毎のイメージ例：

A【動き方】 ...人やモノをスムーズに移動させる為に形作られたもの(インフラ・機能 等)
道路・鉄道・空港・橋・トンネル・エスカレーター・エレベーター・動く歩道・物流センター・
市場・信号機・上下水道・砂防・水門・ダム 等
※渋滞回避の仕組みや河川などの水利確保などを表すものも良いかと思います。

B【分け方】 ...人やモノを分ける為に形作られているもの(土地利用・境界線 等)
県境・道路の分岐・改札口 (ETC や遊園地のゲート等も含む)・フェンス (柵) 等で区切られて
いるもの・ビニールハウス群 (天候や害虫を防ぐ為に分けられている)・球場施設 等

C【見方】 ...近接・俯瞰等、見方によって新たな発見があるもの(立体構造物・光と影 等)
棚田群 (俯瞰)・雲上の城 (竹田城等) 昼と夜の見え方が違うビル・山頂からの町場の景色・高
架道路の下からの景色・鉄道レールのサビや敷石 (近接)・灯台 (近接) 等

詳細・募集要項は[こちら](#)よりご確認ください。皆様のエントリーお待ちしております。

G 空間情報センターお役立ち情報

◆ G 空間情報センター F A Q は [こちら](#)

法務省登記所備付地図データ関連の情報等、よくあるお問い合わせを掲載しております。

◆ [G 空間情報センターの YouTube チャンネル](#) をご活用ください☆

G 空間情報センターの使い方解説や、最新データセットの公開ご案内等、動画でご案内しております。チャンネル登録いただきますと、新しい動画の公開通知等が取得可能です。ぜひご活用ください。

◆ G 空間情報センターサイトからの [お問い合わせ](#) は、該当の [データセット名](#) と [URL](#) を併せてご連絡いただくとスムーズです。

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

G 空間情報センター

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5-203

Email : info@geospatial.jp

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。